

梨の枝・伐採竹 活性炭に

きんたろう倶楽部 富山・ファミリーパークで

燃料として再利用

NPO法人「きんたろう倶楽部」は本年度から、梨畑で剪定した枝や森林整備で出る竹で炭を作り、富山市ファミリーパーク（同市古沢）のバーベキューコーナーや新設される足湯の燃料として再利用する事業に取り組み。将来は広く販売して自主財源の柱にし、市民に資源循環について考えてもらおうきっかけとする。30日にパークで開いた総会で決定した。

呉羽地域では梨の剪定で年間13050トンの枝が発生し、農家が処理センターに有償で持ち込んだりしている。きんたろう倶楽部が整備活動で切った竹も、野積みにするかチップにして森にまくだけだった。

有効活用に向け、倶楽部と連携するファミリーパークが、試験的に竹チップで炭を作って調査。土壌改良や水の汚れを取る活性炭としての効果を確認した。

倶楽部とパークは今後、県外の製炭炉に依頼して炭のサ



ファミリーパークが試験的に作った竹炭を見ながら、製炭事業について話すパーク職員（左）と倶楽部メンバー

北日本新聞 平成28年5月3日(火)

ンプルを作り、品質や採算性を確認。費用のめどが立てば、パーク内に製炭炉を建設する。鏡森定信理事長は「2017年度中に、剪定枝の循環利用を実現したい」と意気込んでいる。

総会では、役員改選で鏡森理事長を再任。設立10周年を記念し、11月6日に植樹イベントを呉羽丘陵で行う。